

健康メモ

糖尿病網膜症

広島市南区医師会理事
田中眼科医院院長 田中 恵子

「最近、見えにくくなつた!」
と言って、眼科を受診される患者さんの中には



直接眼科的な疾患以外に糖尿病や高血圧などと関わりがある場合があります。「糖尿病で、目が悪くなるなんて知らなかった」と言われることもあります。視力低下を主訴に受診される糖尿病患者さんには、①内科で治療中にもかかわらず、眼科受診をしたことがない。②以前糖尿病を指

摘されたことがあるが、治療放棄した。③検診を受けたことがないので自分が糖尿病患者であることを知らなかつた」と言われます。

糖尿病による眼の合併症の中には、糖尿病網膜症、角膜障害、白内障、血管新生緑内障、眼球運動障害などがあります。眼合併症は、重症化しないと視力低下や痛みなどの自覚症状がないため発見が遅れることが少なくありません。中でも、糖尿病網膜症は中途失明の主な原因となるため、早期発見、早期治療が必要となります。

糖尿病網膜症は、糖尿病腎症と糖尿病性神経障害と並んで三大合併症の一つです。網膜症の進行は、単純網膜症、前増殖網膜症、増殖網膜症の三段階に分けられます。放置しておくと、急に見えにくくなる可能性があります。治療が必要ときに適

切な治療をすることで、進行を防ぐことができます。進行すれば治療困難となり視力を維持することが難しくなります。糖尿病網膜症の増悪因子は、長期の罹患期間、高血糖、高血圧、高脂血症、飲酒、喫煙などが挙げられるため、可能な限り生活習慣を変えるよう勧められています。がっかりするのは、「今さら変えられない」との返事が多いことです。

糖尿病である以上、「見えてるから大丈夫」ということはありません。自覚なしに網膜症が進行している場合が多いため、必ず定期検診をお願いします。糖尿病と指摘されたら眼科受診をお勧めします。糖尿病患者さんは年々増えていきます。大事に至らないために日頃から予防していただきたいと思えます。